

適用範囲		型式		SK260DLC-10		
仕様		最大高さ	mm	16, 500	15, 150	12, 000
		ブーム及びアーム収納		3つ折れ	2つ折れ	セパレートブーム
ブーム及びアーム		基本ブーム	m	8. 3	9. 17	3. 8
		第二ブーム	m	2. 3		3. 25
		第三ブーム	m			
		第一アーム	m	4. 4	4. 9	3. 5
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値	検査基準値	検査基準値
安全装置	作業範囲規制装置 （図3－1参照）	警報装置の仕様		警報型	警報型	警報型
		警報鳴作業半径	mm	8, 000	8, 500	8, 700
		警報鳴作業半径（縦向）	mm	10, 000	10, 000	10, 300
	ブーム降下防止装置 （図3－2参照）	アームフット				
		伸縮量	mm	60	60	60
		測定時間	分	10	10	10

1. 作業範囲警報装置の確認

アーム先端をベースマシンの旋回中心から警報鳴作業半径の位置まで動かしたとき作業範囲警報装置の警告音が鳴ること確認する。なお、下部走行体は前後縦向き方向と横向き90度方向のそれぞれで確認すること。

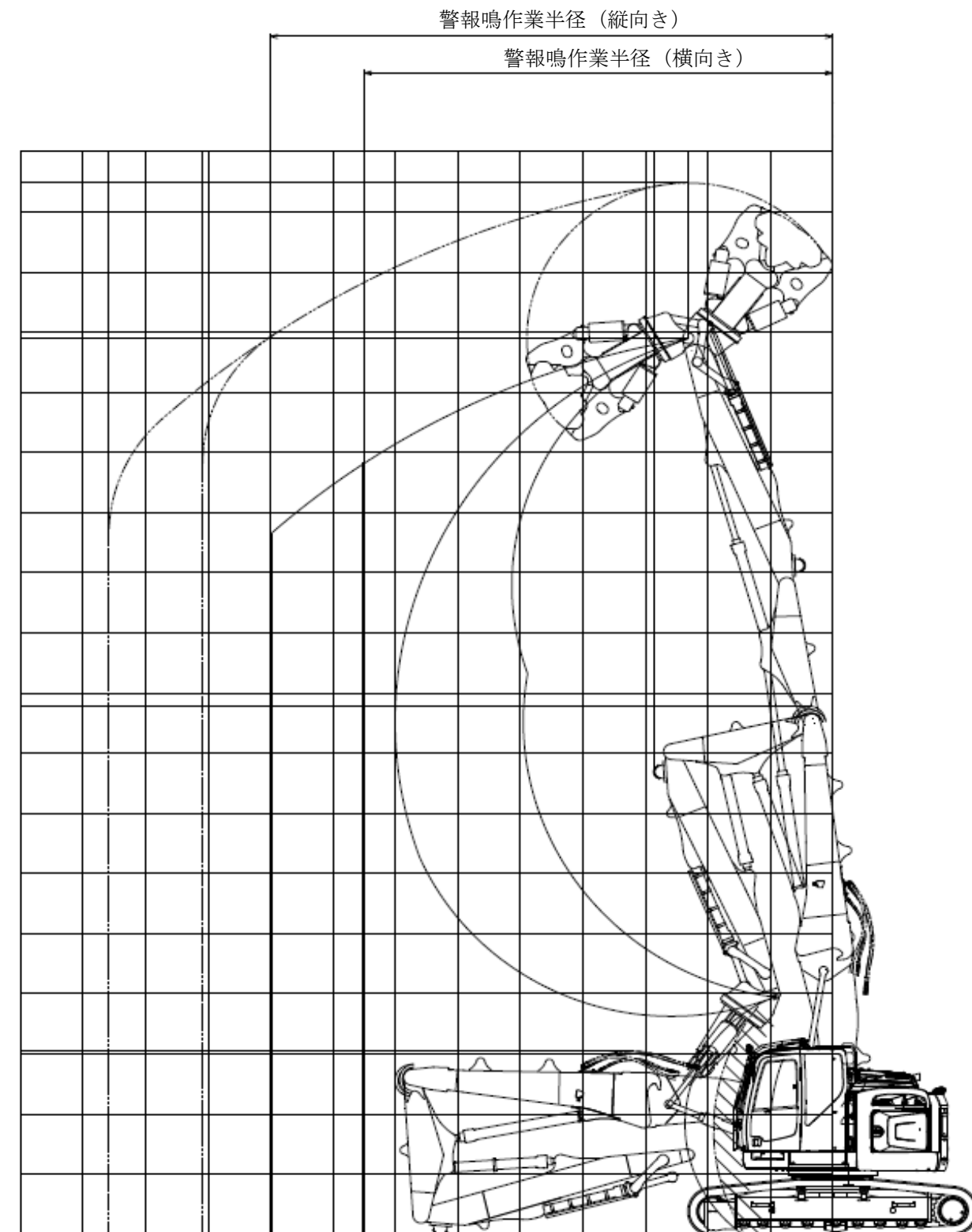


図3-1 作業範囲警報装置の確認

2. ブームシリンダ伸縮量の測定

(1) 測定条件

- ・ 作動油温： $50 \pm 5^{\circ}\text{C}$
- ・ 水平堅固な平坦地
- ・ シリンダ交換直後の場合は、シリンダ内のエア抜き後に計測すること。

(2) 測定姿勢

- ・ 油圧圧砕機等の先端アタッチメントは取り外す。
- ・ ブームシリンダ以外のシリンダを最縮にし、アームトップをブームフット高さにする。

(3) 測定

- ・ エンジン停止後、10分経過時のアームフット高さAの降下量を計測する。

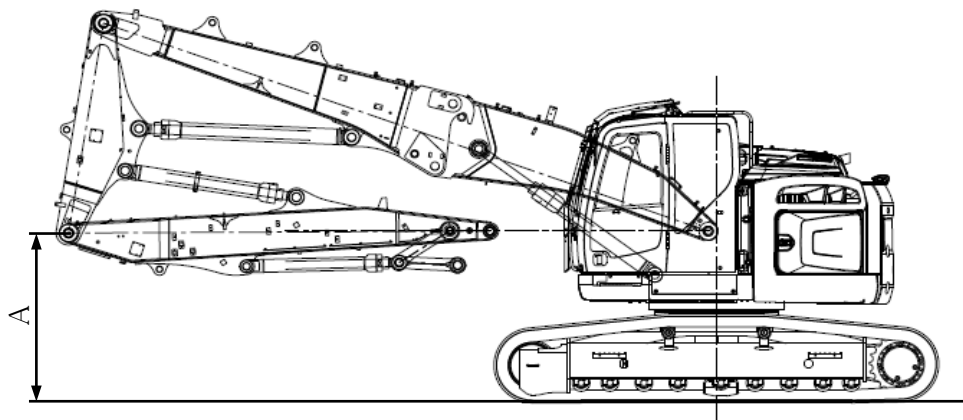


図3-2-1 3つ折れ超ロング／セパレートブームの測定姿勢

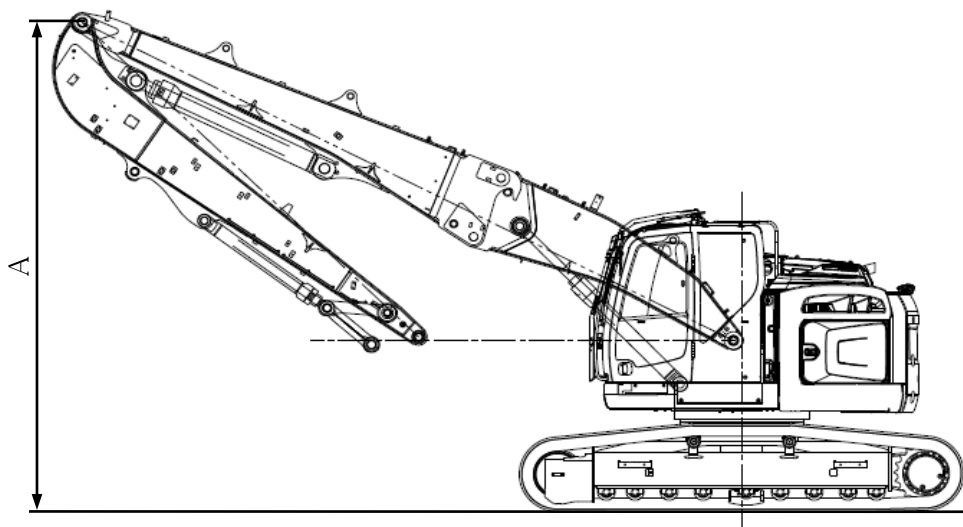


図3-2-2 2つ折れ超ロングの測定姿勢